

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立岩松小学校

1 自己評価書

教育目標 ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く岩松の子どもを育てる							
基本方針		本校は、創立153年目を迎える歴史と伝統のある学校である。校区は、自然、人材、文化環境に恵まれており、学校運営協議会との連携を図りながら教育活動を推進している。今年度、チーム担任制と教科担任制を導入し、メリットと課題を明らかにしながら、研究実践を進める。また、「ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く岩松の子どもを育てる」ために、総合的な学習の時間のカリキュラムを再構築して、学校・地域・保護者が一体となった地域とともにある学校づくりを推進する。					
本年度重点目標		1 確かな学力を育てる教育の推進 2 安心・安全で充実した教育環境の整備 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 特別支援教育の充実					
評価項目	評価小項目	評価の観点		評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B	
				・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	A	
				・保護者アンケート	A		
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・児童生徒アンケート	A	B	
				・教師アンケート	B		
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・児童生徒アンケート	A	A	
				・教師アンケート	B		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・保護者アンケート	B	B	
				・児童生徒アンケート	B		
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B	
				・保護者アンケート	B		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	B	A	
				・教師アンケート	A		
				・保護者アンケート	A		
	(成果と課題) ○地域と協力した総合的な学習を積極的に進め、地域での学習や学んだことを発信することができた。 ○EILSの検定に自主的に取り組む児童が多く、計算力の向上につながっていると感じている。 ●授業に関連したものについて読書を薦めたが、計算検定やタイピングに夢中になる児童が多く、十分に読書に取り組ませることはできなかった。						
	(改善策等) ○日課表にある朝の読書にきちんと取り組ませる。 ○チャレンジタイムや岩松タイムを有効に活用して基礎学力の定着に向けた取り組みができるよう、共通理解して実践していく。 ○どのような児童を育てるのか、そのために何をしていくのかを明確化して実践していく。						
評価項目	評価小項目	評価の観点		評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・児童生徒アンケート	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	B		
				・児童生徒アンケート	A		
	④	自己肯定感 等	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	A	
				・保護者アンケート	A		
			自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート	A		B
				・教師アンケート	B		
	⑤	自己肯定感 等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	A	A	
・教師アンケート				B			
(成果と課題) ○トラブルの早期発見、迅速な初期対応を心掛け、事が大きくなる前に対処することができた。 ○いじめに対して職員一丸となって取り組んでいる。 ●チーム担任制・教科担任制による、一貫した指導や前向きな取り組みが難しいと感じることがあった。							
(改善策等) ○「落ち着いて」「その後を想像して」「余計な迷惑を掛けていないか」等の指導を、根気強く個別に話していかなければならない。 ○小さなことから一つ一つ声掛けをしていく等、全教職員が同じ指導をする。 ○望ましい人間関係の構築のためにも、人権・同和教育を充実させていく。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（杵を移動しました。）	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○子供が病気の時に休みがとりやすい雰囲気がある。問題に対してのサポート体制が機能してきた。 ○授業準備や環境整備等、様々な仕事をスクールサポートスタッフに依頼できるようになり、かなり残業時間は減った。 ●勤務時間の1カ月単位での短縮は徐々にできてきたが、1週間単位での短縮には至っていない。					
(改善策等) ○働き方に対し、個人個人の意識改革が必要である。 ○課外活動については、今年度のように負担が軽減できる運営を継続していく。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○学校運営協議会では、地域のことについて熟議を行い、今後の学習に参考になるものを得ることができた。 ○チーム担任で学級通信が出しにくい分、ホームページで発信できている。 ○電話対応、保護者対応を丁寧に行い、不満や悩みをしっかりと聞くことができた。 ●理不尽な保護者や何かと学校へ責任転嫁する家庭がある。そのような家庭への対応は課題である。						
(改善策等) ○対応が難しい家庭については、教育委員会や関係機関等と連携して対応を進めていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満